

開催地名：千葉県松戸市	
開催日時	令和2年1月10日（金） 14：00 ～ 16：00
開催場所	松戸市民会館
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	防災リーダー、防災ボランティア、町会・自治会、市民、市職員等 約450名
開催経緯	当市では、首都直下地震の発生や、巨大地震発生の切迫性が懸念されている中、市民一人ひとりの防災意識や知識の向上を図ることを目的として日頃から啓発活動を行い、自主防災組織の結成及び活動を進めている。平成26年より避難所ごとに避難所運営委員会を設置し、すべての避難所で開設・運営訓練を実施することを目標としているものの偏りがある。また防災リーダーの高齢化、災害に対する危機意識の低下、低年齢層への防災意識の向上についてが課題となっている。
内容	（１）自然災害においては「想定外」はない 私は仙台市で保育園を経営する傍ら、平成18年より、地元仙台市太白区茂庭台5丁目町内会の防災統轄をつとめている。私が町内会の防災統轄をつとめるようになってから、まずは「想定」以上の備えを積み重ねてきた。その理由は、「最悪の事態を想定」しておけば、様々な事態に対して地域として対応ができるはずだからである。地震に限らず、他の大規模災害についても同様だと思っている。だからこそ、それに耐えうる「想定」以上の備えが必要になる。従って、地域の方々には「想定外」というのは通用しないということを常々伝えている。 （２）避難所の実際 避難所の内容は場所によって全て異なり、一時避難場所、地域指定避難場所、広域避難場所、福祉避難場所等の種別がある。基本的には他所の方が「地域指定避難場所」には行ってはいけないことになっていて、あくまでも地域の方々が優先ということになる。（震災当日に JR 東日本が仙台駅に滞留する帰宅困難者や観光客等他所の方々を地域指定避難場所に誘導してしまい、大混乱となってしまった）「避難所」には優先順位があるということを認識していただきたいと思う。そして、避難所へ運ばれてくる「救援物資」についても、まずは避難場所に避難してきている方々のためということである。（例えば、救援物資を積んだトラックがその避難場所へ向かったのが見えたからといって、その避難所にいけば物資を貰えるわけではない） 避難所で工夫した点としては、まずは様々なトラブルが起こらないように避難所内のスペースを地域毎に区分けしたことである。具体的には出入口を1カ所にして利用人数を把握しやすくし、さらには高齢の避難者がくつろげるスペースを部屋の両サイドの壁際に設けた、「半島型避難スペース」にした。避難所

	を利用する方々にとっても、運営する側にとっても、非常に便利であるので是非お勧めしたい。 (3)平成 18 年から行った 5 年間計画の活動 私たちの地域は平成 18 年から、5 年間の計画で災害に備えてあらゆる準備をしてきた。まずは「防災マップ」の作成、次にマニュアルの作成を行った。さらには「自主防災組織」も作り、そして、防災の勉強会の実施を経た上で、防災訓練を実施した。定期開催の防災訓練では、普段自宅や地域にいる大人や高齢者、小学生の子供を中心に行った。なぜなら働いている大人の方々は、平日は地域に居ないケースが多いうえ、職場や現場等の復旧に駆り出されてしまい、あてにできないからである。 また、地域内の介助者として、元医師、看護師、福祉保健士、学校の先生等だった方々を募り、災害発生時の協力を約束してもらうこととした。 (4)最後に 震災時の避難場所の運営は、地域住民での運営を徹底した。逆に学校の職員は地域学校に在籍する児童生徒の安否確認や被害を受けた学校の立て直しに注力していただいた。従って、避難所の運営は地域町内会、自治会の役割で、その避難所においてのルール設定については地域住民全員が認識しておかなければならず、地域と学校が一体になることが最も重要であると思う。 このように、先であげた「想定以上の備え」を徹底したため、大震災を乗り切ることができたと思う。このことにより、様々な災害にも対応できることが実証できたと思っている。さらに来るべき災害に備えて、今まで以上に日頃からの防災・減災に対する取り組みを継続していきたいと思う。  
開催地より	東日本大震災を経験した語り部の言葉は、重く、そして参加者に伝わりやすい非常に良い機会だった。児童・生徒などを巻き込んだ避難所運営の方法等、今後の郷再活動に役立てていきたいと思う。